**桜美林大学北東アジア総合研究所**

**「東アジアフォーラム２１」　開催のご案内**

**テーマ：　21世紀東アジア地域の将来と日本の役割**

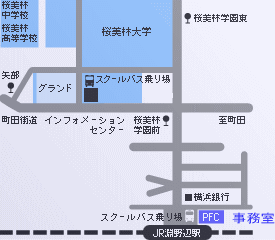
**-3.11を超えて新たな地域連帯を模索する-**

**日時：　　2011年11月26日　13時15分～19時（受付12時45分～）**

**場所：　　桜美林大学町田キャンパス　サレンバーガー館１０１１**

**東京都町田市常盤町3756**

**アクセス：横浜線淵野辺駅より桜美林学園スクールバスで5分**



**主催：　　桜美林大学北東アジア総合研究所**

**共催：北東アジア研究協力ネットワーク（NEASE-NET）**

**日中科学技術文化センター**

**参加費：　一般　2000円（資料・レセプション込）、学生　無料**

**趣旨：**

**3.11は日本社会に大きな衝撃をもたらしましたが、この出来事を契機に東アジア社会全体における様々な問題点、解決課題も浮き上がってきました。**

**２１世紀はアジアの世紀といわれ、中国、韓国、ＡＳＥAN諸国はじめ、東アジア各国の経済的発展には力強いものがあります。しかし、その半面急速な発展に起因する様々な解決課題もあり、中でも急激な開発がもたらした様々な環境問題、技術と安全管理、所得格差等の問題は東アジア各国で個々にはその差はありますが社会の不安定要因となりつつあります。**

**一方で、経済のグローバル化と金融資本主義の暴走によって起こったヨーロッパや米国における金融危機の深刻化は東アジア地域にも様々な形で影響を及ぼしつつあります。また、今ソーシャルメディアによって増幅された格差社会への不満が大きなムーブメントとして全地球的に拡大しつつあります。**

**双方向性をもった電子情報通信ネットワークのグローバルな拡大は多くの利便性をもたらしましたが、一方で政治システムや経済にも大きな衝撃とイノベーション（創造的破壊）をもたらしつつあります。**

**第二次大戦後半世紀弱の期間に驚異の復興と経済成長、技術的発展を成し遂げた日本は東アジア地域で最初に「均質でゆたかな社会」を完成しましたが、バブルが崩壊して以降、この20年間、「成熟の中での停滞」が持続し、じわじわと格差社会が拡大しつつあります。**

**今回のフォーラムでは、東アジア地域が今直面している問題点を明らかにするとともに、日本のこれまでの体験が東アジア地域の将来にとってどのような役割を果たし得るのか、東アジア諸国にとって日本の果たすべき役割について、具体的な解決課題としての東アジア地域におけるＦＴＡ問題やＴＰＰ問題への対応も視野に入れながら、また都市開発や観光開発といった具体的な面での日本の役割の事例をまじえて議論を進めていきます。**

**プログラム**

**12：45～　 受付**

**13:15　 フォーラム開始**

**13:20－13:30　 開会挨拶　桜美林大学学長　佐藤東洋士**

**13:30－14:00　 問題提起　「２１世紀東アジア地域における諸課題と日本の役割」**

**北東アジア総合研究所特別顧問　谷口　誠（元国連大使、OECD事務次長）**

**筑波大学大学院名誉教授　進藤榮一（東アジア共同体評議会副議長）**

**14:00－14:40 基調講演１「東アジア地域の政治経済状況における諸課題」**

**東京大学教授　高原　明生（朝日新聞書評委員）**

**14:50－15:30　 基調講演２「中国における日本企業の開発事業と今後の役割」**

**地域開発コンサルタント　布瀬川　集（元三井ホーム専務取締役）**

**15:40－16:20　基調講演３「東アジア地域における情報通信革命と日本の役割」**

**桜美林大学教授　　岩崎　宇雄**

**16:30－17:10　基調講演４「東アジア地域における観光開発の諸課題」**

**桜美林大学教授　　鈴木　勝**

**17:20－18:00　 パネルディスカッション**

**「3.11後の世界　２１世紀東アジアの将来と日本の役割」**

**パネリスト：谷口　誠、高原明生、布瀬川　集、鈴木　勝、吉田　進**

**凌　星光、進藤　榮一**

**モデレーター：岩崎宇雄**

**18:00－18:15　　全体総括：　北東アジア総合研究所特別顧問　谷口　誠**

**18:15－18:25　　閉会挨拶：　桜美林大学副学長　大越　孝　　（敬称略）**

**～19:00　　　　レセプション**

**+連絡先：桜美林大学北東アジア総合研究所事務室　TEL/FAX 042-704-7030 Mail n-e-a@obirin.ac.jp**